

# ジャパンジャグリングフェスティバルにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン北海道会場版

第0版（北海道会場スタッフ 2020年9月14日作成）

## <目次>

- 1.はじめに
- 2.イベント開催に当たっての基本的な考え方について
- 3.開催時の感染防止策について
  - (1)参加募集時の対応
  - (2)受付時の留意事項
  - (3)開催中、参加者が行うべきこととその管理
  - (4)開催中、開催者が行うべきこと
  - (5)準備すべき物品
  - (6)その他の留意事項

## <本文>

### 1.はじめに

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、感染防止のための取組を進めることが求められています。本ガイドラインは、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を受けてNPO日本ジャグリング協会より作成された「ジャパンジャグリングフェスティバルにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン第1版(NPO日本ジャグリング協会 2020年8月30日作成)」を準拠し、北海道会場にてジャグリングイベントを開催するに当たっての基準や、感染拡大予防のための留意点についてまとめたものです。

なお、新型コロナウイルス感染症への感染を防止するための方策については、必ずしも十分な科学的な知見が集積されている訳ではありません。このため、本ガイドラインは、現段階で得られている知見等に基づき作成しており、今後の知見の集積及び各地域の感染状況を踏まえて、逐次見直すことがあり得ることに御留意をお願いします。また、参考とする「ジャパンジャグリングフェスティバルにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン第1版(NPO日本ジャグリング協会 2020年8月30日作成)」の内容が変更された場合にも、逐次見直す場合があり得ることに御留意をお願い致します。

開催者は事前に通読することが望ましいですが、準備中、開催中に該当項目を参照できるよう、時系列に沿った項目を設けました。そのため、各項目には重複があります。

### 2.イベント開催に当たっての基本的な考え方について

イベントの開催の可否については、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の提言等に基づき、以下のように対応することが適当です。

(1)北海道が**特定警戒**都道府県に指定された場合

- ・中止又は延期します。

(2)北海道が特定都道府県に指定された場合

- ・感染リスクへの対応が整わない場合は中止又は延期します。
- ・比較的少人数が参加するイベントについては、北海道における、イベントの開催に係る方針に従い、実施の可否等について慎重に検討します。
- ・開催を決めてからも、感染拡大の兆候やスポーツイベントにおけるクラスターの発生があった場合、北海道知事の協力の要請等に基づき、無観客化、中止、延期等の適切な対応を行います。

(3)北海道が緊急事態措置の対象とならない場合（他都道府県が緊急事態措置の対象となっている場合）

- ・北海道における、イベントの開催に係る方針に従い、実施の可否等について検討します。
- ・感染防止が困難であると考えられた場合には中止又は延期します。
- ・**他都道府県からの参加を見合わせていただく可能性がございます。**
- ・開催を決めてからも、感染拡大の兆候やスポーツイベントにおけるクラスターの発生があった場合、北海道知事の協力の要請等に基づき、無観客化、中止、延期等の適切な対応を行います。

開催する場合、政府、各都道府県知事の方針、利用施設の要請、「ジャパングラグリングフェスティバルにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン第1版(NPO日本ジャグリング協会2020年8月30日作成)」を参照します。自治体等が、飲食店等を対象に感染対策宣言ステッカー等を発行している場合があります、イベント開催者が掲示者として該当する場合には利用を推奨します。

北海道会場の自治体の感染対策が記載されたホームページ(以下HP)と問い合わせ先を以下に示します。

**【HP】**

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する情報

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ssa/singatakoronahaien.htm>

**【問い合わせ先】**

札幌市保健所：011-622-5151

### 3.開催時の感染防止策について

開催者は以下の内容を踏まえつつ、北海道会場の特性を勘案して対策を行います。

#### (1)参加募集時の対応

参加募集に際し、参加者が遵守すべき事項を明確にして、協力を求めます。これを遵守できない参加者には、入場の拒否や途中退場などを求める場合があります。また、自主的に参加を見合わせた場合、参加費の返金に応じるなど、参加を控えやすい環境の整備を行います。

以下に参加者に求める措置を示します。

①以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる事。

ア 体調がよくない場合

イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

ウ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

②マスクを持参、着用すること。また、各自のごみを持ち帰る袋等を持参すること。

③こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。

④他の参加者、開催者スタッフ等との距離(できるだけ 2m を目安に、最低 1m)を確保すること。(障がい者の誘導や介助を行う場合を除く。)

⑤イベント中に大きな声で会話、応援等をしないこと。

⑥汗をぬぐうための清潔なティッシュ、タオルなどを持参すること。

⑦感染防止のために開催者が決めたその他の措置を遵守し、開催者の指示に従うこと。

⑧イベント終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、開催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

⑨イベント参加前も節度ある行動を心掛けること。

感染してから自覚症状が出るまでの期間にも他者へ感染させる場合があり、イベント参加 2 週間は節度ある行動をすることが求められます。新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCONA)の使用も推奨されます。

#### (2)受付時の留意事項

当日の受付時に参加者が密になることを防ぎ、安全にイベントを開催するため、以下の配慮を実施します。

①受付窓口には、手指消毒剤を設置します。

②体調不良のある者には参加しないよう再確認し、保存可能な形(google フォーム形式)で情報の提出を促します。

参加者募集時に体調不良者には参加を控えるよう求めています。開催 1 週間前(9 月 13 日頃)と、当日の計 2 回、再確認を行います。なお、回答結果内容により参加が適切でない者は参加を控えさせる場合があります。

③受付時に検温を行い、発熱のある者は参加を控えさせます。

ここで発熱とは暫定的に他の内科疾患に準じて 37.5°C以上とします。検温の結果は、3(2)②の体調に関する情報とともに保存します。開催者も、開場より前に(3)②体調申請書の提出及び③検温を行い、参加が適切でない者は参加を控えます。運営に参加できない者が多く開催が困難な場合には、中止や延期を検討します。

④人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽します。

⑤参加者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行います。

行列は密集しやすい場所です。距離を置いて並べるよう、できるだけ2mを目安に(最低 1m)の間隔に目印を設置します。目印の設置とともに、並ぶ場所の換気の確保にも留意します。

⑥受付を行うスタッフには、マスク等防護具を着用させます。

⑦インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付の一層の普及を図り、受付場所での書面の記入や現金の授受等を避けるようにします。

⑧マスク等防護具の持参を確認します。

(3)開催中、参加者が留意すべきこと

参加者が留意すべき項目をまとめます。

①ジャグリングの内容に配慮し感染のリスクとなる技は避けること

一般に、ジャグリングイベントにおいて、道具、手、床面は汚染される可能性があり、接触感染対策に留意する必要があります。

ア)道具が顔に触れないようにすること

道具が顔に触れる事は接触感染のリスクになると考えられます。イベント中は、イーティングや道具を啜る技など直接粘膜へ接触する技は禁止します。ストールやバランス、その他の技について、顔を使ったものは避けて頂くようお願い致します。また、マスクやフェイスシールドをしたままできない技についても同様に避けて頂くようお願い致します。

イ)道具の共用をなるべくしないこと

複数人での技や道具の共用は接触感染のリスクとなります。例えばパッシングは汚染物→手→道具→手→ジャグラーの粘膜という順の接触感染の原因になる可能性があります。パッシング中に顔を触らない、パッシング前後には手洗い又は手指消毒、道具の消毒・除菌をするなどの配慮をお願いします。道具の貸し借りはなるべく避け、貸し借りする場合にはパッシングと同様の配慮をお願いします。スティールはジャグラー同士の距離が非常に近いため、飛沫感染対策の面からもリスクが高いと想定され、特に向かい合って行うものは禁止します。ワークショップやジャグリングゲームではこれらの技を行わないよう、講師および開催者は注意を促します。

ウ)ドロップした道具を拾う際に配慮をすること

ドロップした道具が使用者から離れていく場合、拾いに行く過程でソーシャルディスタンスが保てなくなる可能性、他の参加者にぶつかるまたは拾われる可能性があります。ドロップした道具はなるべく自分で拾うこと、ドロップした道具が飛散しないようジャグリングする際の向きや位置に注意するよう配慮をお願いします。

#### ②マスクやフェイスシールドを装着すること

参加中は飛沫を飛ばさないようにマスクまたはフェイスシールドの装着をお願いします。なお、マスクの大量生産に伴い品質の悪いものが出回っていて、破損することがあります。また、マスクを忘れる、紛失する、汚損する場合が想定されます。マスクのない参加者は会場に入れられないため予備まで持参するようお願いいたします。ただし、マスクを着用して運動すると十分な呼吸ができず人体に影響を及ぼす可能性があります。また、マスクは熱中症のリスクを上げる可能性があります。そこで、平時以上に休憩を取る、水分補給を行うなど体調管理に十分に注意したうえで、ホール内ではマスクの着用をお願いします。休憩時間を設けることも有効な可能性があります。なお、N95 マスクを着用して運動することは禁止します。

フェイスシールドやゴーグルについては目の粘膜からのウイルスの侵入を防ぐために有効です。新型コロナウイルスによる結膜炎や、涙からのウイルスの検出も報告されていますが、各種ガイドラインに記載が少ないため、推奨するにとどめます。

#### ③手洗いを十分に行うこと

手指衛生は感染防止に非常に有効です。入退場の際、休憩の前、その他汚染された可能性のある時には手洗いの実施をお願いします。手は十分な時間をかけて洗い残しのないように洗う必要があり、手洗いの手順と時間について啓発することが有効と考えられます。

#### ④参加者同士の間隔を開けること

飛沫が飛散する距離は1~2mとされます。参加者同士は2m以上、最低1m離れるよう配慮してください。必要に応じて直接の巡回や館内放送などで注意喚起を行います。(障がい者の誘導や介助を行う場合を除きます。)

ジャグリングゲームや技の内容も密集するものはできる限り避けて下さい。向かい合うものはなるべく避け、同一の方向を向いて行うよう配慮して下さい。

#### ⑤大声を出さないこと

大きな声を出すことは飛沫の飛散のみならず、より感染リスクの高いエアロゾル発生のリスクとなります。参加者は必要以上に大きな声を出さないよう配慮して下さい。

#### ⑥タオルを共有しないこと

スポーツに伴い汗をかきますが、汗は一般に感染性はないものとして扱われます。ただし、汗を拭う際に目・鼻・口に触ることは感染の原因になる可能性があります。

ジャグリング中の手指は汚染されることが多いので、顔の汗を拭う際にはなるべく清潔なティッシュを使うなど、直接触れないように注意して下さい。タオルの共有はしないで下さい。手洗い場などに共有のタオルがある場合には使用せず、使い捨てのペーパータオルを使用して下さい。

⑦イベント外でも良識ある行動をすること

大人数での会食はなるべく避け、各自治体などのガイドラインに沿った対策をした飲食店に限るなど良識ある行動をお願いします。宿泊はなるべく個室にし、十分に感染対策のされた施設を利用して下さい。その他人込みに行かない、イベント外でも適切にマスクを着用するなど、良識ある行動を求めます。COCOA の使用を推奨します。

⑧顔を触らないこと

手指衛生を徹底しても、ジャグリング中には手指は汚染される可能性が高いです。顔(特に目、鼻、口)には直接触らないように注意して下さい。清潔なタオルやティッシュ越しに触る、やむを得ず直接触る場合には手を洗った直後にするなど推奨されます。

⑨ジャグリング道具の消毒、清掃を行うこと

ジャグリング道具は接触感染の原因となる可能性があります。入場前、退場後には道具を消毒または清掃をして下さい。なお消毒薬を用いる必要は必ずしもなく、掃除用雑貨で有効なものがあります。「ジャパンジャグリングフェスティバルにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン第 1 版(NPO 日本ジャグリング協会 2020 年 8 月 30 日作成)」内の(5)②および(参考 2)を参照してください。素材や技の特性によって事情が異なるので、細かな方法については指定しません。消毒・清掃のタイミングは入場前、退場後、道具の共用前、共用後、その他汚染されたと思われるタイミングが推奨されます。

北海道会場では道具の消毒スペースを常設します。

消毒スペースに簡易のごみ袋を用意していますので、除菌シート等は持ち帰るようお願い致します。

⑩ゴミの管理を適切に行うこと

会場内のゴミ箱にゴミを捨てること、会場内にゴミを放置することは禁止します。会場にて発生したゴミは各自で持ち帰るようお願い致します。

(4)開催中、開催者が行うべきこと

「ジャパンジャグリングフェスティバルにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン第 1 版(NPO 日本ジャグリング協会 2020 年 8 月 30 日作成)」内の 3.(4)における各項目を準拠します。なお、北海道会場にて独自に取り組むべき項目については以下の通りとします。

①環境の消毒について

会場独自に設定したチェックシートに基づき、開場前・開場中（数回）・イベント終了後に消毒作業を行います。なお、換気を行った際のドアの消毒については、換気時に行います。

②ゴミの管理について。

消毒スペースに簡易のごみ袋を用意していますので、除菌シート等は持ち帰るようお願い致します。

③手洗いについて

開場のお手洗いにハンドソープを設置していますので、利用してください。

④ソーシャルディスタンスの確保について

受付時には動線の目印を設置します。

北海道会場ではソーシャルディスタンスを確保するため参加人数を35人に制限しています。

⑤飲食について

会場内は、飲料の摂取は可能です。食事については会場外にてお願い致します。飲食時はマスクを外してもかまいませんが、大声で話すなど飛沫感染の恐れがある行為はお控えください。

(5)準備すべき物品

「ジャパンジャグリングフェスティバルにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン第1版(NPO 日本ジャグリング協会 2020年8月30日作成)」内の3.(5)における各項目を準拠します。

(6)その他の留意事項

①イベント開催後

もし参加者の感染があった場合に適切に対処できる体制が必要となります。参加者は、参加前に感染が疑われる方と接触していたことが判明した場合や、参加後2週間以内に体調に異変があった場合には必ず開催者に連絡をして下さい。また、感染確認等の連絡における連絡先確保のため、体調申請書、連絡先、名簿等の記録を少なくとも1か月は保存します。COCOAは有効な可能性があり、使用を推奨します。自治体独自のアプリまたはLINEアカウントでの対策を行っている場合があり、使用を推奨します。